

# 都議会 民主党 Report 2014 レポート

新春号

発行：都議会民主党政策調査会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1  
TEL 03-5320-7230 FAX 03-5388-1784  
http://www.togikai-minsyuto.jp/

いしげ

東京都議会議員

# 石毛しげる



都議会議事堂

質疑・応答

質疑 Q

## 平成25年東京都議会第3回定例会・代表質問

平成25年9月25日

都議会民主党幹事長 石毛しげる (西東京市)

1. 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて
2. 新たな長期ビジョンについて
3. ハツ場ダムの建設に関する基本計画の変更について
4. 震災対策について
5. 子育て支援について
6. 障害者総合支援法について
7. 新銀行東京と築地市場移転問題について



代表質問を行う 石毛しげる



## 2020年東京オリンピック・パラリンピックについて

抜粋

私はオリンピック・パラリンピック招致議員団の一員として、ブエノスアイレスに行っていました。機内には、各国のオリンピック・パラリンピック関係者が乗り合わせていました。その一人にスイスのIOC委員であるデニス・オズワルド氏の奥様がおられ、御主人へ日本を支援していただきたいと話し、快い返事をいただきました。このように機内でも、招致活動を行いました。

56年ぶりに開催される2020年大会は、オリンピック・パラリンピック史上最も一つに統合された、一体感ある祭典を目指しています。これを契機に日本における障害者スポーツが発展するよう、都が国内大会への支援を引き続き行い、障害者の夢と希望を支えていただきたいと思います。

また、パラリンピアンにも優しい東京は、障害の有無にかかわらず都民がお互いに人格や個性を尊重し安心して暮らすことのできる東京であり、障害者施策を推進していくべきです。

帰りのブエノスアイレスの飛行場では、議員団長、副団長、日本パラリンピック委員会の委員長、交通政策の専門家であるフィリップ・ボヴィ氏と広く意見交換をし、2020年大会では、多言語表記やバリアフリーが重要ということを確認し合いました。

ふたつの大会を一体感ある祭典とするには、2大会を祝うイベント開催やロンドンパラリンピックを見習う競技のチケット戦略、オリンピックに勝るとも劣らないパラリンピックを放映する報道体制の構築、各競技会場への外国式点字を含めた表記アクセス支援など、様々な取り組みが必要です。

2020年大会を一体的な祭典とするとともに、パラリンピアン、障害者にも優しい東京を実現していくべきと考えます。

2020年東京オリンピック・パラリンピック大会の成功に向けた知事の見解を伺います。

## 応答 A 知事答弁

2020年に向けて、障害の有無にかかわらず、全ての都民がともに暮らす心のバリアフリー社会の実現を目指し、動きを加速させ、オリンピックとパラリンピックを一体感のある最高の祭典に仕上げていきたいと思っております。

今後7年間、多くの外国人が日本を訪れることになります。



2020年 オリンピック・パラリンピック開催都市決定 都民報告会にて。壇上の石毛しげる(矢印)

このため、道路標識や案内標識だけでなく、レストランのメニューの多言語など、さまざまな多言語対応をさらに推し進め、言葉の壁を感じることなく、外国人が自由にひとり歩きできる環境を整えていきたいと思っております。

また、若者から高齢者まで幅広い方々を大会ボランティアとして大会運営に協力していただく。こうしたボランティアの方々に、大会開催までに、語学はもとより日本の歴史、文化について理解を深めていただいて、世界中からのお客様をお迎えしたいと思っております。等の回答をいただきました。(答弁抜粋)



近代オリンピックは、古代ギリシアのオリンピアの祭典をもとにして、世界的なスポーツ大会を開催する事をフランスのクーベルタン男爵が19世紀末のソルボンヌ大における会議で提唱、決議されました。

夏季と冬季に大会があり、夏季オリンピック第1回は、1896年にアテネ(ギリシャ)で開催され、世界大戦による中断を挟みながら継続されています。

冬季オリンピックの第1回は、1924年にシャモニー・モンブラン(フランス)で開催されました。

1994年以降は、西暦が4で割り切れる年に夏季オリンピックが、4で割って2が余る年に冬季オリンピックが開催されています。(FIFAワールドカップが開催される年と同じ)。

1994年のリレハンメル大会より、夏季大会と冬季大会が2年おきに交互開催するようになりました。



開催都市決定の瞬間、現地ブエノスアイレスにて...

## 猪瀬知事の辞職表明について(談話)

平成25年12月19日 都議会民主党幹事長 石毛しげる

猪瀬直樹氏が、都知事を辞職することを表明いたしました。

私たち都議会民主党は、知事不信任決議の提案も辞さないと考えていたことから、今回の猪瀬氏の辞職表明は、当然と言えば、当然のことと考えています。

猪瀬氏は、辞職の理由を「都政をこれ以上混乱させてはならない」と述べていましたが、事実上、徳洲会側から5千万円を授受した問題での引責辞任であると考えています。

この間、都議会民主党の議員の質疑により、多くの矛盾点が明らかになり、猪瀬氏の二転三転する説明、ウソ・偽りの説明に対して、多くの都民・国民が不信感を募らせてきました。

猪瀬氏は、会見で「今後も説明をしていきたい」と述べていましたが、今後も猪瀬氏が説明責任を果たすことを求めるとともに、徳洲会問題を捜査している東京地検などにおいて、この問題が究明されるべきだと考えています。

史上最多の約430万票を獲得した猪瀬氏の在任期間は、わずか1年でしたが、2020年東京オリンピック・パラリンピックの招致成功など、その功績は、素直に認めたいと思います。お疲れさまでした。

都議会民主党は、今後、新しい都知事候補を擁立するとともに、新都知事の下で、新たな都政をスタートし、「生活者」「納税者」「消費者」「働く者」の立場から、都民福祉の向上に全力で取り組んでいく決意です。

# 台風26号被災地調査 伊豆大島現地調査を終えて



東京都大島町 自然豊かで美しい島である

昨年の台風被害で亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げ、被災された皆様に心からのお見舞いを申し上げます。また、救出救助活動に全力を挙げた皆様、復旧、復興に尽力をされている皆様に深く敬意を表します。

都議会民主党は、平成25年10月16日には東京都に対して、専門技術職員等の人的支援を初めとして、島民生活を一日も早く正常化させるための支援策、今後の防災体制について、できる限り速やかに検討することなどを要望しました。

また、私も含め都議会民主党の議員が、18日より現地に入つてつぶさに調査をし、その足で災害対策を統括する内閣府に要望しました。

その後、民主党の若手議員がボランティアとして現地に入りましたが、大島では専門技術職員の手が足りないというのが、現地での切なる訴えでした。



今後、都においては、島しょ町村における専門人材の確保、育成にしっかりと取り組んでいただきたいと思います。

都はこれまでに、建物被害認定調査や罹災証明書発行業務に関し、支援職員を派遣してきましたが、現地からの要望も強かったのは、メンタルケアに携わる職員の不足でありました。

この分野において、都は、東日本大震災においても多くの専門性の高い職員を派遣してきたところでございます。

現地ニーズに対応した職員派遣を求めるものです。

また、多くの土石流が流入した元町漁港では、重機による土砂や電柱など瓦れきの撤去、さらには潜水による湾内の土砂の除去が行われておりますが、土石流被害は漁業に深刻な影響を及ぼしております。

大島町の水揚げ高は、2011年に250トン、金額では2億1千178万円です。

漁船の操業はもちろん、港近くの貝類や海草類の再生作業を早期に開始するためにも、元町漁港の復旧を急がなければならないと考えています。

今回の大島での災害を貴重な教訓として、島しょ地域における地域防災計画見直しを図ることなども必要と考えます。

各市町村との連絡情報体制の強化はもちろん、都としてもさまざまな改善が必要と考えます。

また、阪神・淡路大震災をきっかけに議論となったサイレントタイムですが、大島町の災害現場でも、数多く飛び交うヘリコプターの音が、救助の妨げとなったり、住民のストレスになっているとの訴えがありました。

災害状況を正しく伝えることも必要なことではありますが、少なくとも、静粛にする時間をつくるなど、東京での災害発生時におけるサイレントタイムの導入と運用方法等について、都としても早急に関係団体との話し合いを進めていきたいと思ひます。



現地調査を行う石毛しげる 想像を絶する災害規模に心を痛める



## Topics

### TV東京「7スタ LIVE」が放映されました

「国際都市東京の発展をめざして」  
～東京都議会各会派幹事長にきく～

平成25年9月24日放送

東京都議会の各会派幹事長をスタジオに招き、国際都市東京の発展について話を伺う番組の中で、石毛しげるは、「外国の方が東京に住んで、自国に帰った時に日本で教育を受けた人達がその大学の制度では受けられないという問題があります。



国際バカロレアがありますが、日本には27校、東京には私立で1校のみです。これを都立でも開講しようという動きがあるが、こうした事も特区を含めて外国人が住みやすい環境に繋がると思ひます。

オリンピック・パラリンピック招致がされたわけですが、まだ福島第一原発の汚染水処理が終わっておらず、この事をしっかりする事がまず肝要だと思ひます」等と語った。

### プロフィール



- 昭和28年生まれ。慶應大学(文)卒業、法政大学(経済)卒業、早稲田大学大学院修士課程修了(公共経営研究科) 早稲田大学大学院博士課程修了(公共経営研究科)
- 保谷市議会議員(当選5期) 西東京市議会議員(当選1期)、西東京市議会議長、東京都議会議員(当選3期)
- 都議会警察・消防委員会副委員長、経済・港湾委員会委員長、環境・建設委員会委員、都議会民主党総務会長代行、東京都監査委員
- <現在> ● 東京都議会議員 ● 都議会民主党幹事長 ● 警察・消防委員会理事
- (財)東京都交響楽団評議員 ● オリンピック・パラリンピック招致議員連盟副会長
- 金剛寺住職

朝の駅立ち「都政報告」  
継続中!

## 東京都議会議員 石毛しげる 事務所

〒188-0014 西東京市芝久保町3-6-23

TEL : 042-460-0855 FAX : 042-460-0856

E-mail shigeru@ishige.info http://www.ishige.info

※ ご意見、ご要望をお寄せください。(E-mail または FAXでお願いいたします。)

### 警視庁第七機動隊新庁舎落成式



隊長から水難救助訓練の説明を受ける



水難救助訓練(捜索活動)

東京多摩方面を管轄する警視庁第七機動隊は、浅間山荘事件で活躍したという歴史をもつ部隊です。昭和44年にレンジャー部隊が発足し、平成13年「銃器レンジャー」と「山岳レンジャー」に再編されたとのことです。

レンジャー部隊は、警視庁機動隊の中で、第七機動隊にのみ編成されており、銃器等を使用した立てこもり事件発生時人質の救出や犯人の逮捕、山岳遭難者の捜索・救助等を任務としています。

写真にもある、機動救助隊は、災害又は事故の発生に伴う被災者又は事故者の人命救助及び負傷者等の検索等の任務に当たります。



七機のシンボル「若獅子」とともに

### 若獅子の七機

昭和62年1月に作られたものです。シンボルのマスコットである若獅子(ライオン)の「L」と七機の「7」の組み合わせを基調に、稲妻を連想させる鋭角と優美な曲線によりなっており、疾風迅雷の警備、人の痛みがわかる警備を象徴しています。



石毛しげるのホームページは、こちらから→

### 都議会民主党西東京市支部

